

放っておいたら、あ肝！ 肝臓病の治療

～お薬について～



薬剤部



本日の内容

- 肝臓病の治療薬
 - ① 各疾患に特徴的な薬
 - 肝炎ウイルスに対する薬
 - 自己免疫性肝炎の薬 など
 - ② 肝機能を改善する薬
- 肝硬変 合併症の治療について
- アミノ酸製剤について



肝臓病のくすり

原因ウイルスの駆除及びウイルスの減少によりAST・ALT値の正常化を目指す

①各疾患に特異的な薬

- **C型ウイルス性肝炎治療薬**（飲み薬）
ハーボニー[®]・マヴィレット[®] など
- **B型ウイルス性肝炎治療薬**
ペグインターフェロン（注射）
バラクルード[®]・ベムリディ[®]（飲み薬） など
- **自己免疫性肝炎**に使用される免疫抑制剤
プレドニン[®]・イムラン[®] など
- **原発性胆汁性胆管炎**に使用される
ウルソデオキシコール酸・ベザフィブラート

C型慢性肝炎治療薬

ウイルスを完全に駆除する

治療の第一目標は
C型肝炎ウイルスによる
肝がんの発症を阻止すること！

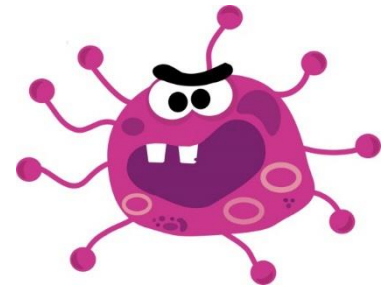


直接作用型抗ウイルス薬（DAA）

- DAAはウイルスの**遺伝子に直接作用**してウイルスの増殖を抑制する。

DAAの特徴

- 飲み薬
- 服用期間が短く、比較的副作用が少ない。
- 治療不成功例では高頻度で遺伝子の変異が認められ、薬に効きにくい耐性ウイルスが発現するため注意が必要。



マヴィレット®配合錠

- C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる

→ ジェノタイプ1型～6型まで全ての型に有効

- ジェノタイプ1・2型のC型慢性肝炎に対しては8週間(2ヶ月)、
// C型代償性肝硬変に対しては12週間(3ヶ月)、

ジェノタイプ3～6型に対しては12週間(3ヶ月)服用

マヴィレット®錠

1日1回 (1回3錠)

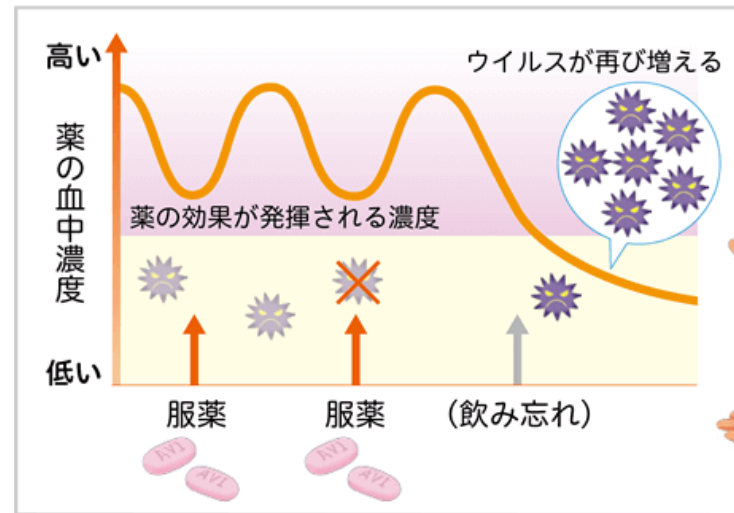


- ・透析中の方、腎機能障害がある方にも 使用可能
- ・食後にお飲みください。

注意事項

- 肝機能、腎機能に応じて薬剤が選択されます。

- 治療の効果を得るために
飲み薬は毎日欠かさず
服用することがとても
大切です。



- 一緒に服用してはいけない薬やサプリメントがあります。
他院・他科を受診する場合は、お薬を服用中であることを
必ず医師・薬剤師に伝えてください。

他の薬との飲み合わせについての注意

一緒に服用してはいけない薬

- 抗結核薬: リファンピシン
- 高脂血症治療薬: アトルバスタチンカルシウム
- 抗HIV薬: アタザナビル

一緒に服用する際に注意が必要な薬

- 強心剤: ジゴキシン
- 抗血小板薬: ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
- 抗てんかん薬: カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール
- 卵胞ホルモン製剤: エチニルエストラジオール含有薬品
- 高脂血症治療薬: シンバスタチン、プラバスタチン、フルバスタチン、ピタバスタチン、ロスバスタチン
- 免疫抑制剤: シクロスポリン

セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品

など

サプリメントや健康食品との飲み合わせにも注意が必要です。必ず医師・薬剤師にお知らせください。



セイヨウオトギリソウについて



- セントジョーンズワートとも言われ、オトギリソウ科の多年草で古代ギリシャの時代から薬用ハーブとして用いられてきた。

- うつ病や不安神経症、睡眠障害に有用といわれている。



- 体内に存在する薬物を代謝する酵素(CYP1A2やCYP3A4)を増やしたり薬物の排泄を促進させ、様々な薬(抗ウイルス薬、抗がん剤、抗凝固薬、免疫抑制剤など)の効果を低下させる可能性がある。

⇒薬との飲み合わせに注意が必要

セイヨウオトギリソウについて

- 食品として健康食品やサプリメント、ハーブティーに含まれていることがある。

(例)



成分の確認を！

- 長期にわたって服用していた場合に影響が出る可能性が高い。服用を中止してもすぐに効果が消えるわけではありません。
- お薬の効果を高め、副作用を防ぐために、普段使用されている健康食品やサプリメントの情報は医師・薬剤師に必ずお伝えください。

B型慢性肝炎治療薬

ウイルスを減少させるが、完全に駆除できない



B型肝炎の抗ウイルス薬

	長所	短所
ペグインターフェロン(ペガシス®皮下注)	<ul style="list-style-type: none">・投与期間が決まっている・免疫活性作用あり	<ul style="list-style-type: none">・注射薬で煩雑・発熱、筋肉痛といった副作用が出やすい
核酸アナログ製剤 エンテカビル(バラクルード®) テノホビル ジソプロキシル (テノゼット®) テノホビル アラフェナミド (ベムリディ®) ラミブジン(ゼフィックス®) アデホビル(ヘプセラ®)	<ul style="list-style-type: none">・飲み薬・副作用は少ない・ウイルス増殖抑制作用が強い	<ul style="list-style-type: none">・長期間飲み続ける・中止すると肝炎が再燃しやすい・飲み続けると効果が落ちる場合がある

- ・ 主な副作用
肝機能・腎機能の低下、脂肪肝、血小板減少、悪心 など
- ・ バラクルード®は食事の影響を受けるため、空腹時にお飲みください。

自己免疫性肝炎



自己免疫性肝炎の薬



* 副腎皮質ホルモン(ステロイド):プレドニン

炎症や自己免疫反応を抑えたり、肝臓の繊維を減らす効果がある。

量の調節が重要である。

* 免疫抑制剤(アザチオプリン):イムラン

副腎皮質ホルモンの効果が不十分または副作用のため使用できない場合に使用する。

ステロイドの副作用

- * 易感染(感染にかかりやすい状態)
 - * 胃潰瘍
 - * 骨粗鬆症
 - * 血糖上昇 ……薬などで対処できるものは行う。
 - * 満月様顔貌(ムーンフェイス)
薬の服用をやめれば元にもどる。
- * 自己判断で中止すると、再発や増悪を招きやすいので注意してください。**



ウルソデオキシコール酸



- もともと肝臓から作られる「胆汁(胆汁酸)」の一成分
→ウルソデオキシコール酸(UDCA)
- 作用:胆汁分泌を促進、胆石を溶かす、肝機能の改善
コレステロール吸収抑制
- 副作用:軟便、下痢、吐き気、胸やけ など

グリチルリチン製剤



- 漢方生薬の甘草(かんぞう): マメ科から抽出
- 商品名: ヒシファーゲン[®] (注射)・グリチロン[®] (飲み薬) など
- 作用: 抗炎症、免疫調節、肝細胞の保護
- 副作用: 食欲低下、胃の不快感、アルドステロン様作用 (低カリウム血症や高血圧)

肝硬変（合併症の治療）

肝硬変における薬

- 高アンモニア対策

ピアーレシロップ®、リフキシマ®

便秘は大敵！

- 肝性脳症対策、肝臓がんのリスク軽減

分岐鎖アミノ酸（BCAA）製剤：アミノバクト®、リーバクト®

- 胃や食道粘膜保護対策

胃酸を抑える薬：ファモチジン®、オメプラゾール®

- 腹水

利尿剤：フロセミド、スピロラクトン、サムスカ®

※電解質バランスを考えた組み合わせが大切

分岐鎖アミノ酸製剤 (BCAA)

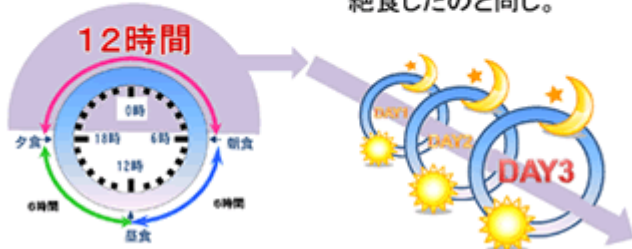


BCAA+蛋白・脂質・糖質・ビタミン

BCAAのみ

肝硬変の人が
夕食から朝食まで
12時間
何も食べないのは

健康な人にとっては、
3日間
絶食したのと同じ。



肝臓が夜間にエネルギー不足にならないように、寝る前に少しのカロリーを補給する夜食療法 (LES) もあります。

(大塚製薬 だれにでもできる肝硬変の栄養療法)

最後に

- お薬は用法用量をきちんと守ってお飲みください。
- 何か気になる症状があれば、我慢せずに主治医に必ず申し出てください。
- 飲み合わせの確認などご不明な点がございましたら薬剤師にお声かけください。

